

道南一帯に残る
激戦の傷跡

箱館戦争は1868（明治元）年10月20日の旧幕府脱走軍の蝦夷地侵攻に始まり、翌69年春の新政府軍の猛反撃により、旧幕府脱走軍はついに降伏、5月18日の五稜郭明け渡しで終焉を告げた。戊辰戦争の最後の戦いである。

戦争の地域は道南一帯に及び、随所にその遺跡、遺構が見られる。明治元年の戦いは榎本武揚率いる旧幕府脱走軍艦隊が森町鷺ノ木に上陸した地点から始まり、五稜郭へ向け進撃する途中、激戦となった七飯の峠下や大野、土方歳三らが進撃した川汲峠、戦火に覆われた松前藩の居城・福山城下、松前藩の新城、厚沢部の館城、開陽丸が座礁沈没した江差町の鵜島など、その戦闘の跡をたどることができる。

五稜郭は蝦夷島仮政権の本営地となったところで、士官以上の入札により総裁に榎本、副総裁に松平太郎を選出した。榎本は朝廷にたいして最後の「嘆願書」を提出した。

だが新政府はこれを握りつぶし、賊徒追討を決める。

決戦を覚悟した榎本は、急ぎ五稜郭の北東側の東照宮を守備するために四稜郭を造成し、さらに権現台場や千代ヶ岡陣屋、弁天岬台場、松前、江差などの守りを強化した。

1869（明治2）年4月、新政府軍は反撃を開始し、乙部の海岸から上陸した。海岸近くに「官

軍上陸の地」碑が立っている。新政府軍は一気に江差を突破し、松前を奪い返したうえ、福島、木古内、上磯などで戦闘を展開した。大野の二股口は箱館に通じる難所で、もっとも激戦となった場所である。

新政府軍はじりじりと五稜郭へ迫り、5月11日に箱館総攻撃をかけた。この日、土方歳三が一本木関門を突破した後に戦死した。弁天岬台場は降伏し、16日、千代ヶ岡陣屋は壮絶な戦いの末に陥落した。その夜、榎本は切腹しようとして果たせず、ついに降伏を決意した。18日五稜郭明け渡し。

箱館五稜郭祭りは毎年、この明け渡しの日に近い土日に開催される。圧巻は両軍のパレードだ。マーチに乗って葵の紋の旗を押し立てて旧幕府脱走軍、つまり蝦夷島仮政権軍が登場する。黒いフロックコートに身を固めた榎本武揚が松平太郎や大島圭介、荒井郁之助らを従えて進む。ここでも人気は「誠」の旗をひるがえす新選組の土方歳三らだ。

続いて新政府軍総裁の黒田清隆以下の武将が赤、黒、白のシヤグマをかぶり、威風堂々と進む。酒樽の行列は、榎本がオランダ留学時代に学んだ「海津全書」を兵火に焼くのは忍びないとして黒田に贈ったのにたいする黒田が返礼の酒である。

途中、大砲がドーン、と轟音を響かせ、沿道を埋めた人々を魅了する。